2024年2月17日の福岡集会の後に寄せられた質問についてお答えします。

キリストの律法はいつから適用されるのでしょうか？

【質問】

私は、イエス様が活動された期間、いわゆる公生涯は、すでにキリストの律法の時代に入っていて、旧約聖書の律法の時代はバプテスマのヨハネまでなのかな、と思っていました。ヨハネ5:18 には「ユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っていただけでなく、神を自分の父と呼び、ご自分を神と等しくされたからである」とあります。イエス様が安息日を破ったのは、モーセの律法の時代からキリストの律法の時代に入っているからだと理解していました。

ところが、中川先生が、イエス様の公生涯の時期はまだ旧約の律法の時代であり、イエス様はモーセの律法を完全に守られた、と教えておられました。そして、聖書フォーラムで学んで、イエス様が破っていたのは、モーセの律法の中の安息日に関する規定ではなく、当時のユダヤ教、パリサイ人たちが作った言い伝え、いわゆる口伝律法の中の安息日に関する規則であるとわかりました。

その点はわかったのですが、では、安息日は守らなくてもよいというキリストの律法は、いつから適用されるのでしょうか？　ペンテコステの時からでしょうか？

【回答】

今回の質問にお答えするには、論点を3つに整理して、お答えします。

第一は、モーセの律法が終了したのは、いつか。・・・イエスが十字架にかかった日、紀元 30年4月7日です。

第二は、キリストの律法がスタートしたのは、いつか。・・・紀元30年の五旬節の祭りの日、使徒の働き2章、いわゆるペンテコステの日です。

第三は、安息日を守らなくてもよくなったのは、いつか。・・・モーセの律法の終了と同時です。キリストの律法によって守らなくてもいい、となったのではありません。モーセの律法が終了したから、守らなくてもよくなったのです。

それぞれの答えについて、詳しい理由は、次ページ以降をご覧ください。

2024年2月17日の福岡集会の後に寄せられた質問についてお答えします。

【モーセの律法が終了したのは、いつか】

1. イエスが十字架の死にまで神に従ったことによって、モーセの律法は完成され、終了した

（1）モーセの律法は、誰も守ることができないまま廃棄されて終了する、というわけではない。メシアが律法を完全に守って、律法の要求が完全に満たされて終了する、というのが、神のご計画であった。イエスは、自分はそれをするために来たとして、次のように言われた。
マタイ 5:17 **わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思ってはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。**

（2）イエスは、その生涯において一度も罪を犯したことがなく、十字架の死にまで神に従い通した。かくして、イエスは、律法を完全に守った人類史上初めての人となった。

Ⅰペテロ2:22 **キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。**
ピリピ2:8～9 **自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。**

（3）よって、モーセの律法が終了したのは、イエスが十字架の上で死んだとき、紀元30年4月7日である。このことを教える聖書箇所は、次のとおり。

① ガラ3:19 **それでは、律法は何でしょうか。それは、約束を受けたこの子孫（メシア）が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者（モーセ）の手で定められたものです。**

② ヘブル9:15 **キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約（モーセの律法）のときの違反から贖い出すための死が実現して、召された者たちが、約束された永遠の資産を受け継ぐためです。**

③ ヘブル10:8～10 **以上のとおり、キリストは「あなたは、いけにえやささげ物、全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物、すなわち、律法にしたがって献げられる、いろいろな物を望まず、またそれらをお喜びになりませんでした」と言い、それから、「今、わたしはあなたのみこころを行うために来ました」と言われました。第二のもの（新しい契約）を立てるために、初めのもの（モーセの律法）を廃止されるのです。このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだが、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。**

2024年2月17日の福岡集会の後に寄せられた質問についてお答えします。

2. 十字架にかかる前に、イエスが大祭司になったことによっても、モーセの律法は終了した

（1）メシアの職務は、地上の公生涯において「預言者」、天に戻って「大祭司」、天から再び地上に来て「王」、の3つである。預言者から大祭司へ職務を転じたのは、ヨハネの福音書17章、イエスが大祭司としての祈りをしたときである。紀元30年4月7日、過越の食事のあとで弟子たちに「二階大広間での説教」をしたのち、ゲッセマネの園へ歩きながら、である。

（2）このとき、エルサレムの神殿をとりしきる大祭司はカヤパ、影の実力者はカヤパのしゅうとで、前の大祭司アンナスであった（ヨハネ18：13）。しかし、神の目から見ると、大祭司はイエスに変わった。

（3）モーセの律法のもとでは、レビ族のアロンの家系の男子が祭司となり、その中の一人が大祭司となる。これに対して、イエスはユダ族であり、王となるべきお方が大祭司の職務も兼ねる。これを、メシア預言である詩篇110：4は、「あなたは、メルキゼデクの例に倣い、とこしえに祭司である」と預言していた。メルキゼデクとは、創世記に登場する人物で、王であり、同時に天の神の祭司であった。ヘブル人への手紙では大祭司がイエスに変わったことで、律法も変わったと教えている。

ヘブル7：11～12　**民はレビ族の祭司職に基づいて律法を与えられました。もしその祭司職によって完全さに到達できたのなら、それ以上何の必要があって、アロンに倣ってではなく、メルキゼデクに倣ってと言われる、別の祭司が立てられるのでしょうか。祭司職が変われば、必ず律法も変わらなければなりません。**

（4）イエスが十字架にかかって死ぬ前に、大祭司になったことには、重要な理由がある。それは、犠牲をささげるのは祭司の役割だということである。そして、その犠牲の血を携えて、幕屋の奥の部屋である「至聖所」をきよめるのは、大祭司の役割である。イエスの場合は、犠牲は動物ではなく、自分自身のからだである。そして、自分の血を携えて天にのぼり、天にある本物の幕屋をきよめる使命を帯びていたのである。

① ヘブル7：27　**イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。**

② ヘブル9：11～12　**キリストは、すでに実現したすばらしい事柄の大祭司として来られ、人の手で造った物でない、すなわち、この被造世界の物でない、もっと**

2024年2月17日の福岡集会の後に寄せられた質問についてお答えします。

偉大な、もっと完全な幕屋を通り、また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。

3. 以上のとおり、モーセの律法が終了したのは、紀元30年4月7日である。この日、イエスは大祭司となり、十字架の上で死んだ。それをもって、モーセの律法は終わった。
その後、イエスは墓に葬られ、それから三日目の紀元30年4月9日に復活し、その日のうちに自分の血をもって天に昇り、天にある聖所をきよめた。
イエスは天の聖所のきよめを終えると、すぐに地上にもどって、その後、40日間、ご自身の復活の姿を弟子たちに現してくださった。

【キリストの律法がスタートしたのは、いつか】

1. キリストの律法に関する啓示が始まったのは、十字架にかけられる前の夜、弟子たちとの過越の食事のあとの席であった。これも、紀元30年4月7日である。

ヨハネ13:34　**わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。**

2. このとき、イエスは、信者たちには「もうひとりの助け主」が与えられると約束した。神の霊、聖霊が降り、信者一人ひとりの中に住んでくださり、信者にキリストの律法を守る力を与えてくださるのである。

ヨハネ14:15～17a　**もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。この方は真理の御霊です。**

3. イエスは、復活から40日間、ご自身の復活の姿を弟子たちに現してくださった。40日目に天に昇るにあたり、イエスは、弟子たちには聖霊が降るという約束を待つように指示した。

使徒1:4　**エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを授けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。**

2024年2月17日の福岡集会の後に寄せられた質問についてお答えします。

使徒1:8 **聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。**

4. 使徒の働き 2 章、五旬節の祭り（ペンテコステ）の日、イエスの復活から 50 日目、聖霊が降臨して、聖霊のバプテスマにより教会が誕生した。このとき同時に、信者一人ひとりの中に聖霊が入ってくださり、キリストの律法を守る力を信者に与えてくださるようになった。以降、信者が福音を信じて救われた瞬間、信者の中に聖霊が入って住んでくださる。

5. よって、キリストの律法の適用開始は、ペンテコステの日である。

【安息日を守らなくてもよくなったのは、いつか】

1. 安息日とは

（1）仕事をしないで休む日。奴隷には休みはない。安息日は、エジプトでの奴隷状態から解放されて、自由の民となったイスラエル民族に対し、神が与えてくださった自由民としてのしるし

（2）同時に、周辺の他民族とイスラエルとを区別する生活ルールとなった。
① そうすることで他民族に同化せず、偶像を拝んだり不道徳な生活習慣に陥ったりすることを避けさせる
② そのため、モーセの律法を、「隔ての壁」（エペソ2:14）とも呼ぶ。
③ 特に隔ての要因となったのが、食物規定、割礼そして安息日。

2. 隔ての壁の排除、食物規定について・・・
（1）イエスは食べ物によって人が汚されることはないことを教え、将来、キリストの律法においては、食物規定がないことを示唆した。

マタイ15:11 **口に入る物は人を汚しません。口から出るもの、それが人を汚すのです。**

（2）使徒10:9～16において、使徒ペテロは、食物規定がなくなったことについて神の啓示を受けた。これにより、異邦人コルネリウスの招きに応じることができ、異邦人への宣教の門が開かれた。

3. 次に、割礼について・・・

2024年2月17日の福岡集会の後に寄せられた質問についてお答えします。

（1）使徒15章、教会会議において、割礼を異邦人信者に求めることはしないことを決定。

（2）ガラテヤ6：15　**割礼を受けているか受けていないかは、大事なことではありません。大事なのは新しい創造です。**

4.　そして、安息日について

（1）使徒の働きにおいて、使徒たちが安息日に会堂に行ったのは宣教のため

使徒パウロの宣教旅行において、次のような記事がある。

使徒13：14　**二人はペルゲから進んで、ピシディアのアンティオキアにやって来た。そして、安息日に会堂に入って席に着いた。**

これは、彼らがモーセの律法を守って安息日を守り、ユダヤ人の会堂での集会に参加していたというわけではない。ロマ1：16にあるように、福音はまずユダヤ人にそしてその次にギリシア人などの異邦人に語るのが原則。
パウロたち二人は、宣教に反対するユダヤ人たちに次のように言った。

使徒13：46　**神のことばは、まずあなたがたに語られなければなりませんでした。しかし、あなたがたはそれを拒んで、自分自身を永遠のいのちにふさわしくない者にしています。ですから、見なさい、私たちはこれから異邦人たちの方に向かいます。**

その後、二人はイコニオンに行った。そこでも、いきなり、異邦人に語るのではなく、やはり次のようにまずユダヤ人のいるところに向かった。

使徒 14：1　**二人がユダヤ人の会堂に入って話をすると**

このように、別の町に行ってそこにユダヤ人の会堂や集会場があれば、まずそこで福音が語られた。ユダヤ人の会堂や集会場での集会は、安息日だったから、宣教もまず安息日の会堂や集会場で行われたのである。

（2）隔ての壁としての律法がなくなったのであるから、その中の規定の一つである安息日の命令もなくなった。キリストの律法で、安息日は守らなくてもよいと規定したわけではない。よって、安息日を守らなくてもよくなったのは、モーセの律法が終了したとき、すなわち、紀元 30 年 4 月 7 日である。

2024年2月17日の福岡集会の後に寄せられた質問についてお答えします。

5. 関連する問題について

（1）キリストの律法には、安息日を守ってはいけないという命令はない。したがって、キリストを信じるユダヤ人信者が、引き続きユダヤ人社会の一員として安息日の民族的習慣にしたがい、この日は仕事をせずに休むという生活をすることは、その人の自由として認められる。

（2）キリストの律法に書かれていない事柄については、信者一人ひとりが強制されてではなく、自分の心の中で確信を持つこと、そして意見を異にする他の信者をさばかないことが大切である。聖書は次のように教えている。

ロマ14：5～6　**ある日を別の日よりも大事だと考える人もいれば、どの日も大事だと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。特定の日を尊ぶ人は、主のために尊んでいます。（食物規定にふれる物を）食べる人は、主のために食べています。神に感謝しているからです。食べない人も主のために食べないのであって、神に感謝しているのです。**

（3）聖書的な礼拝の日、集会の日の設け方には、日曜日などの特定の曜日に限るとか、毎週という決まりはない。大切なことは、定期的に集まること、その頻度は励まし合うために必要な頻度においてである。関連の聖所箇所は次のとおり。

ヘブル10：25　**自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。**

（4）「安息日」について、今でも有効な規定なのかどうかが気になるというのは、実は、モーセの律法、とくにその中の十戒が現代のキリスト教信者にも適用されると考える向きが前提としてある。そもそも、モーセの律法はユダヤ人に対して与えられたものであり、異邦人には最初から関係ない。キリストの律法で安息日に関する命令がないにもかかわらず、安息日を守るべきかどうかという議論をすること自体、実は、私たち異邦人には全く意味がない、このことに留意しておきたい。